

18. 興道寺遺跡

こうどうじいせき

所在地：美浜町興道寺

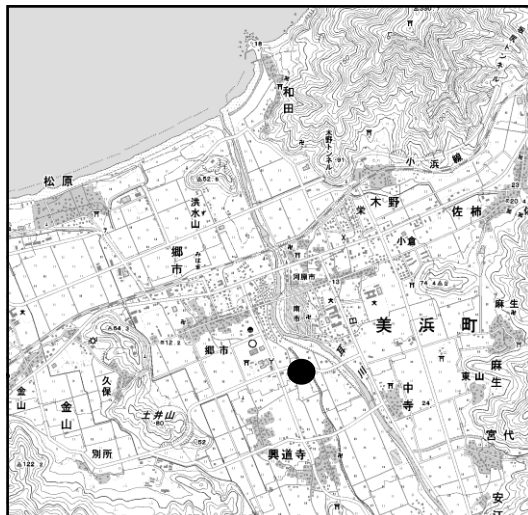
調査原因：内容確認

調査期間：平成 29 年 2 月 7 日～3 月 14 日

調査主体：美浜町教育委員会

調査面積：43 m²

時代：古墳時代後期～古代



位置図 (S=1/50,000)

調査の概要 今回の調査地は興道寺廃寺の寺域外の北方集落にあたります。東に向かって標高が低くなる河岸段丘の段丘崖の付近で調査を行いました。

遺構 地山面が東に向かって大きく傾斜しています。古代の整地面と古墳時代後期の柱穴列 1 基を検出しました。古代の整地面は、地山を削平し、その上に黒褐色土からなる整地土を盛土しています。興道寺廃寺の寺域内や、寺域外でも南門基壇の前面の付近にみられる整地面と同質のもので、寺院再建期に伴う整地の一部と考えられます。整地土には古墳時代後期の土器片や奈良時代の瓦片などが混入しています。

整地面の東側では、柱穴 3 基が東西に並ぶ柱穴列 1 基が見つっています。古墳時代後期の土器片が柱穴の埋土から出土しました。

まとめ 寺域内だけでなく、寺域外においても広く整地を施しており、かなり大規模な寺院造営があったことがうかがえます。また、段丘崖まで古墳時代後期の集落が展開していたことが明らかとなりました。(松葉竜司)



写真 1 調査地全景写真 (東から)



写真 2 古代の整地面



写真 3 古墳時代後期の柱穴列